



# 六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.82  
北六甲の歴史点描  
／ 鎌田 和見  
2010年1月発行

## 第82回テーマ： 北六甲の歴史点描

### 講演内容

- 昔の唐櫃
- 藍那の里山
- 北六甲の魅力



講師：<sup>くわ</sup>田 <sup>かずみ</sup>和見さん

### プロフィール

1956年生まれ、53歳、長崎県出身。昭和54年岡山大学教育学部特設美術科卒業。神戸市教員として、養護学校・各小学校勤務。1996年から神戸市立博物館勤務、神戸市教育委員会勤務後、唐櫃小学校勤務。再び博物館勤務を経て、平成21年から藍那小学校勤務。



山田の里・無動寺の  
たたずまい

実施日：平成22年1月16日（土）  
午後1時～3時20分  
場 所：六甲山地域福祉センター

### 地域福祉センターの給湯器の水も凍った

午前中の環境整備活動では、二つ池の水は大人が乗ってもびくともしない硬さでした。六甲山地域福祉センターでは給湯器の水が凍って、ぜんざいづくりの水の確保に焦りました。午前7時で-10度、厳寒の六甲山を味わいました。

### 鎌田さんの「歴史点描」は見るのが楽しみ

鎌田さんに藍那小学校で、「北六甲の歴史点描」とロマンチックなテーマに決めてもらいました。大学で美術専攻し、博物館で歴史研究された経歴から、「目で見て楽しむ」地域・歴史のお話になると期待しました。

市民セミナーには奥様とご一緒に、奥様は「年末年始はずっと資料づくりで過ごしていました」とのこと。

北六甲全体の歴史的なつながり、昔の棚田の風景や建物などの情趣豊かな写真などで、「見せる工夫」が凝らされており、参加者は居ながらにして歴史探遊を楽ませてくださいました。



丹生山系遠望

### 北六甲の地形から歴史の流れも一望

講演では、六甲山系と丹生（たんじょう）山系という二つの山塊に囲まれた地域が北六甲になると、地形的な位置づけや気候的な特徴を明確にされました。

続いて唐櫃の由来と歴史を説明された。平清盛が唐櫃の多聞寺に力を入れた経緯から、唐櫃には今でも京都の文化が残っている。江戸時代になると、六甲山越えの抜け荷のルートとして注目されるようになる。明治には六甲山を巡る争いが起こり、決着は長引いた。唐櫃村が小学校を建設するために、

山上の土地を阪神電鉄に売却したことから、一気に六甲山の開発が進んだ。

藍那は「あいの」、播州と摂州の中間の意味から来ており、義経道などが有名で、昔からの重要な街道であった。集落は100戸程度だが、明治時代に農村舞台が3つもある豊かな村であった。日本の原風景を絵に描いたような里山があり、多くの研究者やNPOが注目して環境調査・保全に来訪している。

藍那を含む13ヶ村は山田の庄に属し、かつて平清盛が丹生山に月参して賑わった豊かな地域であった。平安期の寺社や仏像など優れた文化財が残っていると、話題は続きました。

### 北六甲を訪ねたいという声が高まった

昔の唐櫃の棚田の写真は不鮮明であったが、現在の変容と比べて衝撃的であった。藍那の辺りで懐かしい原風景を目にできるというお話しに、「ツアーをしよう」と声が上がりました。昨年12月の第81回市民セミナーの有馬温泉に引き続いて、今回の市民セミナーで北六甲の全体像に目をあげました。

※詳しくは、1、2ページをお読みください。

### 参加の感想 林 千寿さん

神戸に住んでいながら毎日眺めているにもかかわらず、六甲山に入る事がなかったのです。縁があって、1年半前に初めて来てみると、色んな魅力があるんですね！

今日は南六甲も知らない状態で北六甲のお話についていけるかな？と、不安半分での参加でしたが、興味深いお話が拝聴できて、大変嬉しく思っています。出来るだけ毎回参加したいなあと思いました。ありがとうございました。



主催：六甲山を活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局、灘区役所、神戸市教育委員会

### 【助成金をいただいている機関】

イオン環境財団、大阪コミュニティファンド、公益信託自然保護ボランティアファンド、公益信託TaKaRaハーモニストファンド